広がる！ 未来の可能性

就職

企業活動のベースにあるのが経済。さらに近年は、環境問題や食料問題が社会的に大きな関心を集めており、食料環境経済学科の卒業生には広い分野から高い期待が寄せられています。就職活動については、早期から学科独自の支援対策を実施するとともに、各研究室でも教員がきめ細やかなアドバイスを行い、学科一丸体制で１人ひとりをバックアップしています。

就職 DATA

学内企業セミナー

食品メーカー、食品流通・外食産業、農協等の農業団体、農業生産法人、公務員、教員など、専門を活かした分野に実績があります。また、金融、商社など、一般的な業種に就職する人もいます。

2014年度　食料環境経済学科　卒業生の就職先

企業・団体

〈食品分野〉
アサヒホールディング
石井食品
加藤産業
サントリービバレッジサービス
スターゼン
成城石井
セブン&アイ・フードシステムズ
千疋屋総本店
テーブルマーク
東京シティ青果
中村屋
日本食研ホールディング
ホッピービバレッジ
三井食品
三菱食品
山崎製パン
六花亭製菓

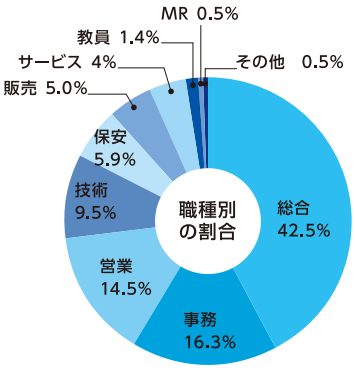
〈農業分野〉
いるま野農業協同組合
生活協同組合コープみらい
全農物流㈱
高崎市農業協同組合
日本農薬㈱
JA全農たまご㈱
JA全農ミートフーズ㈱

〈小売分野〉
イオンイーハート
三越伊勢丹ホールディング

〈その他〉
アステラス製薬
エイチ・アイ・エス
相鉄ホテル
日通商事
日本経済新聞社
三井住友銀行
三菱東京UFJ銀行
など

公務員・学校

本庄市職員
警視庁
岩手県警察本部
静岡県警察本部
高知県教育委員会
香川県公立高校（教員）
千葉県公立高校（教員）
栃木県公立高校（教員）
など



東京農業大学　国際食料情報学部

食料環境経済学科ガイド

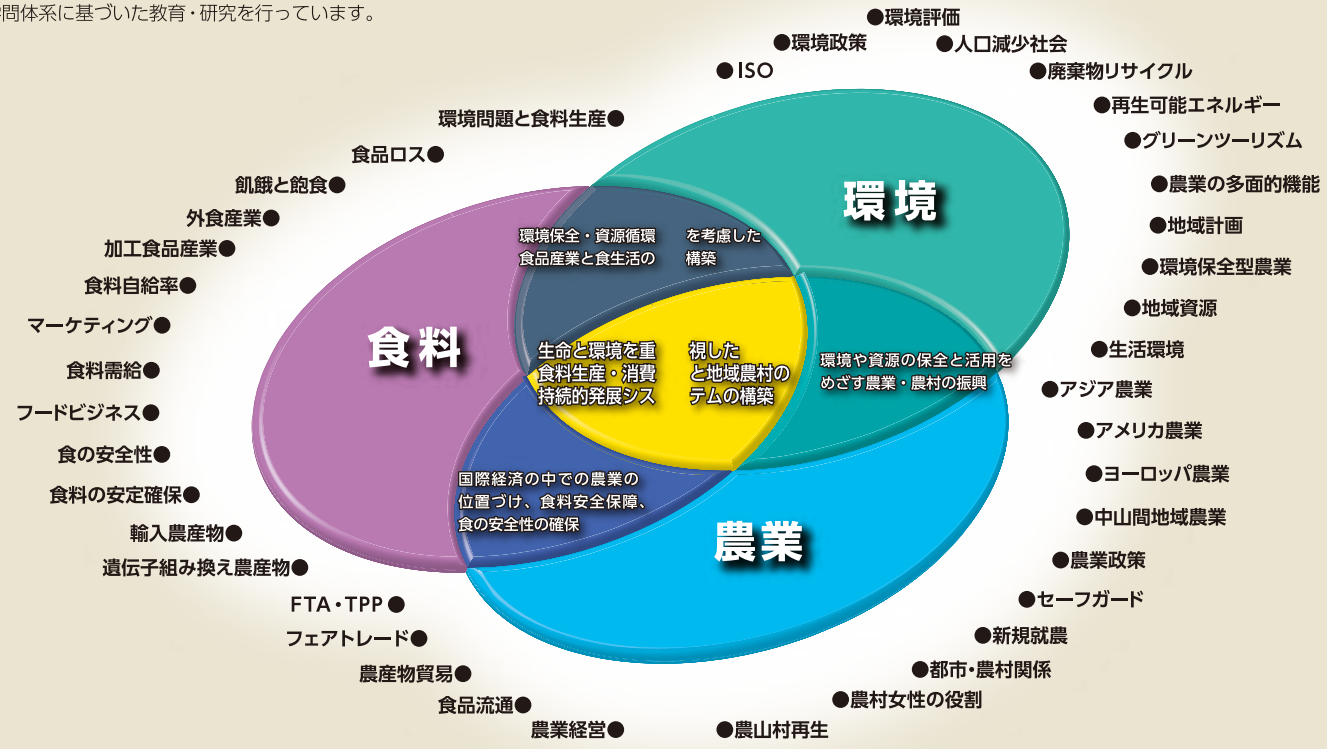
東京農業大学　国際食料情報学部　食料環境経済学科
〒156-8502　東京都世田谷区桜丘1-1-1

TEL	03-5477-2352	FAX	03-5477-2621
URL	http://www.nodai.ac.jp/economics/index.html		

学びのキーワード　食料経済システムのあらゆる領域に多角的にアプローチ

キーワードは食料・農業・環境です

人間が生きていくうえで「食料・食品」は不可欠なもの。その生産拠点となるのは「農業・地域・農村」であり、さらに加工・流通・消費に至る全過程に「環境・資源」が密接にかかわっています。それら幅広い食料経済システムの諸問題に目を向け、経済学を基礎とする社会科学の学問体系に基づいた教育・研究を行っています。



各時代の主要テーマに取り組んできた歴史ある社会科学系の学科です

食料環境経済学科の前身は、1938年に設置され翌年4月から開講された農業経済学科です。東京農大で2番目に開設された学科であり、東京農大の社会科学系学科では最も伝統があります。70年以上の歴史の中で、その時々の主要テーマに取り組んできた蓄積を活かしつつ、今日の新しい時代のニーズに応えています。

学びの体系

1年	2年	3年	4年
教養・基礎		専門・応用	

ゼミ研究室

本学科では、効率的かつ確実に研究能力を向上させるために、ゼミ活動と研究室活動を行っています。

1、2年時は自動的にゼミ配属され、基礎的な研究能力を身につけるとともに、深く学びたい研究分野を見つけます。**3、4年時は、志望する研究室を選び**、研究室及びゼミに配属され（選考あり）、専門的な知識や論文の作成方法を学び、卒論を作成します。

ゼミ活動とは別に、学生達と教員で行う研究室活動があります。この活動では、1人では行いにくい、現地調査やデータ収集・分析を実施しています。

実地研修

1年ゼミ研修

国内の食料生産、流通、環境活動の先進地を視察し、問題意識を育みます。

フィールド研修

1週間の農家研修を通じて、農作業技術から農村生活まで学びます。

フィールドリサーチ

海外および国内の企業・行政・農家等を調査し、調査手法や報告書作成技術を学びます。

研究室の現地報告会

主な講義

	1年	2年	3年	4年
理論・教養	●ミクロ経済学 ●経済学入門 ●経営学入門 ●植物とバイテク ●英語（一）（二）	●マクロ経済学 ●公共経済学 ●企業と会計 ●TOEIC演習 ●英語（三）（四） ●キャリアデザイン	●計量経済学 ●社会調査 ●英会話（一）（二） ●インターンシップ	●ビジネス英語
食料	●グローバル経済論	●食料経済学 ●食品マーケティング論 ●国際フードシステム論	●農産物市場論 ●食品産業論 ●農業貿易論 ●食品安全リスク論	
農業	●農業経済学	●農業経営学 ●国際農業経済論 ●アメリカ・EU農業経済論 ●農業政策論	●農村政策論 ●協同組合論 ●農業思想論 ●アジア農業経済論	
環境	●環境経済史 ●経済地理学	●環境経済学 ●環境社会学 ●経済倫理 ●資源経済学	●環境経済評価 ●環境会計論 ●環境法 ●地域計画論	

講義風景（竹内先生）

研究室とゼミ活動

1年から広く深く学ぶ

1年 → 2年 → 3年 → 4年

研究室

研究室活動

1～4年 希望者

**業界・現場との接点を深め
より高度な専門知識を修得**

1～4年次までの学生と複数の教員により共同研究を進めることで、調査や分析手法等の専門的な能力を身につけます。1人では行いにくい、現地調査やデータ収集、分析ができます。また、共同研究や学科行事への参加を通じて、学年を超えた交流が行われます。

研究室は6つ

- 食料経済研究室
- フードビジネス研究室
- 国際農業・貿易研究室
- 農業経済研究室
- 環境経済研究室
- 地域経済研究室

【主な活動内容】
●共同研究（テーマ決定、調査、データ収集、分析、発表資料作成）
●収穫祭（文化学術展）発表　●研究成果発表
【教員】2～3名　【学生】15～50名程度（1～4年生）

〈研究室〉〈ゼミ〉配属の決定まで　研究室配属

2年後期：テーマなどから志望する研究室を選択

3年前期：定員・志望動機・成績等から研究室およびゼミに配属

ゼミ

1～2年 全員

基礎能力&テーマ発見

食料・農業・環境について幅広く学び、研究を進める上で不可欠な基礎的能力を身につけるとともに、深く学びたい研究分野を見つけます。

【主な活動内容】
●図書館利用方法　●発表の基礎能力
●1年ゼミ研修　●フィールド研修
【教員】1名
【学生】20名前後（同学年）

ゼミ

3～4年 全員（志望・選考）

**興味あるテーマを
より深く追究する**

専門的な知識とともに、論文の作成方法を学び、卒論を作成します。

【主な活動内容】
●研究の進め方
●調査・データ分析手法
●報告資料の作り方
●論文作成方法
●卒論作成
【教員】1名
【学生】15名程度（同学年）

食料経済研究室

**日本と世界の食料生産流通構造と食料問題を
経済学・経営学等の視点から総合的に科学する！**

近年の食に関わる問題は、食料自給率の低下や、食品安全への懸念、食品ロスの増加等にみられるように、農業生産面だけでなく、流通面、消費面に至るまで多岐にわたります。当研究室ではこうした諸問題解決のために、食料の生産から流通、加工、消費に至るまでの過程を1つのシステムとして捉え、経済学、経営学等を基礎として、データ解析や現地調査等を通じてこれら食料問題の解決方向を考えていきます。研究室では6次産業化や農商工連携による地域活性化の方法に関する研究等を通じて、生産、加工、流通、消費のすべてがwin-winとなるような食料経済システムのあり方を研究しています。

（左）**2015年度学生調査**
岐阜県：
道の駅による地域活性化調査
（右）**2014年学生調査**
宮城県：
6次産業化実態調査

教員（研究テーマ）紹介
堀田和彦教授／農商工連携、6次産業化による地域活性化の方法に関する研究

フードビジネス研究室

**フードビジネスおよび関連産業における
マーケッター育成の空間**

本研究室では主にマーケティング論と経営戦略論を用いて、フィールド調査やアンケート調査等を通して得たデータを分析・考察することで、フードビジネスを構成する各業界の特徴や食品企業のマーケティング戦略等の解明を行なっています。室員一丸となって本格的に研究に取り組みますが、学科や大学のイベントにも全力で参加する熱い研究室です。

学会報告
学生であっても研究成果を学会で毎年発表し、その後に論文を投稿しています。ここを終着点に3年生が中心となって、1年間研究をやり遂げます。

収穫祭での模擬店出展
毎年出展しています。普段、座学を通して学んでいるマーケティングの知識を駆使し、大量の商品を売り切ります。（過去に最優秀賞とお客様賞を受賞）

教員（研究テーマ）紹介
大浦裕二教授／食品マーケティングと消費者行動に関する研究
菊地昌弥准教授／農産物流通に関する研究、食品企業のマーケティング戦略に関する研究

研究室とゼミ活動

国際農業・貿易研究室

食料・農業・環境問題を グローバルな視点から科学する

経済のグローバル化は、アメリカ・ヨーロッパなどの先進国、アジアの新興国や開発途上国の農業貿易やフードビジネスを巡る国際関係を変化させ、各国の農業、食生活、自然環境などにおいて様々な問題をもたらしています。当研究室では、こうした食料･農業･環境問題をグローバルな視点から把握し、その解決策を考えていきます。

ヒアリング調査／平成27年度には途上国生産者の自立を目指す「フェアトレード」運動を地域ぐるみで進める熊本市への調査を行いました。

前期・後期勉強会／収穫祭文化学術展での研究発表に向けて、毎週1回勉強会を行っています。研究テーマに関する文献・統計整理、グループディスカッションやプレゼンテーションを行います。

教員（研究テーマ）紹介

立岩壽一教授／アメリカの農業、環境政策、世界のコメ問題
菅沼圭輔教授／中国を中心としたアジア地域の農業・農村開発の問題
野口敬夫准教授／農業貿易の自由化と日本の食料供給システムに関する研究

農業経済研究室

農業生産や農村のフィールドやデータに基づき 食料・農業・農村問題の解決を考える

農業は、食料生産はもとより、農村地域社会、自然環境にとっても極めて重要な存在であり、農家だけでなく、農業法人、集落営農、一般企業など多様な主体によって担われています。本研究室では、このように多様な役割を有する農業をテーマに、農村現場での現地調査を大切にしつつ、経済学的視点、経営学的視点、政策論的視点から、その現状と展望について調査・研究を進めています。

（上）**春季農業実習**／毎年、研究室OBが就農している群馬県沼田市の桑原農園にて農業実習を行っています。
（右）**夏季調査**／毎年、全国各地の研究対象地に赴いて、調査研究活動を行っています。昨年は、飼料用米生産･利用が盛んな岐阜県で調査を行いました。

教員（研究テーマ）紹介

北田紀久雄教授／企業会計システムと農業経営体の確立に関する研究
寺内光宏教授／農畜産物の生産構造および価格形成に関する研究
堀部篤准教授／自治体行財政・新規就農支援・農地政策に関する研究

環境経済研究室

環境とアメニティの評価・保全を考える

本研究室は、環境に関わる問題に対して近代経済学の分析方法でアプローチし、環境保全の重要性と、あるべき環境保全政策について考えます。室員による共同研究では、環境に関連したテーマを毎年決め、収穫祭での発表に向けて調査・研究を行っています。卒業論文も、環境を中心としたテーマについて各自調査して書いていきます。

（上）**サンゴの保全について沖縄での調査**
サンゴの養殖のための苗作りを体験しました。
（左）**世界遺産・白神山地での調査**
ガイドの説明を受けながらトレイルを踏破しました。

教員（研究テーマ）紹介

金田憲和教授／国際貿易と資源問題、環境の経済評価
田中裕人教授／農業・農村の多面的機能についての経済評価に関する研究
岩本博幸准教授／農業環境政策の政策評価に関する研究

地域経済研究室

地域経済の再生と地域振興をプロジェクト

人口減少社会に突入した日本では、全国的に少子高齢化が進行していく中で、農村地域は都市部に先駆けて過疎化・高齢化が深刻化し、地方創生が課題となっています。この様な社会問題を踏まえ、当研究室では地域の多様な個性に着目し、地域経済・社会の再生と地域住民の生活向上に向けて、地域振興を実行するための地域計画のあり方を究明しています。

（上）**2015年度現地調査**／研究課題を進めるため毎年夏に現地調査へ行きます。2015年度は滋賀県彦根市の水田地帯に行きました。
（右）**2014年度現地調査**／2014年度は京都の茶産地に行きました。茶畑にてヒアリング調査を行っている様子です。

教員（研究テーマ）紹介

高柳長直教授／グローバル経済下における農産物産地・地域産業の発展
吉野馨子教授／国内や「第三世界」における農村漁村の生業（仕事）とくらし、地域資源の在地の知を生かした環境共生的な社会の構築
竹内重吉准教授／地域経済社会の持続的発展を可能とする農業システムの構築と地域計画

学習・研究を成長させる３段階の

実地研修

1年

1年ゼミ研修（共通演習）

問題解決の現場を視察・体験

食料・農業・環境の直面する問題の解決に取り組んでいる現場に足を踏み入れ、視察や体験を通じて、今日の姿を理解する学習プロセスを学びます。専門的学習に進む前に、各自が問題関心を育む「気づきの場」となります。ゼミの仲間と交流を深める場でもあります。

実地場所

茨城県
長野県
静岡県
山梨県　など

研修受入れ先

- 農産物直売所
- ワイナリー
- スーパーマーケット
- フードバレー
- 農業法人
- 観光農園
- 農家民宿
- 農家　など

2年

フィールド研修

1週間の農家研修

東京農大の実学主義を象徴する必修科目の一つが、２年次に実施する実地研修です。１週間、研修地の農家で宿泊しながら、実際に労働を体験し、食料生産や経営、マーケティング、地域経済の実態を目の当たりにすることができます。机上の学習では得られない貴重な経験を積むことができ、学生からも好評なプログラムです。

実地場所

北海道／真狩村、京極町、余市町
山形県／高畠町
新潟県／佐渡市
長野県／飯田市、上田市、中野市、松本市、長和町　など

研修受入れ先

- 果樹（りんご・ぶどう）
- 有機野菜
- 施設園芸
- 稲作
- 大規模畑作
- 酪農
- 観光農園　など

3年

フィールドリサーチ

国内外の現地調査研究

教員の指導の下、国内外の企業や農家、公的機関を共同で調査します。「聞き取り調査＝取材」の準備から取りまとめまでの一連の過程・手続きを体験し、フィールドリサーチの技能を身につけます。卒論作成や卒業後にも活かせる調査・報告技能が身につくとともに、視野を大きく広げる様々な体験を得ることができます。

実地場所

アメリカ合衆国
中国
韓国
台湾
北海道
沖縄／本島、宮古島、西表島　など

研修受入れ先

- 食品加工工場
- 農業法人
- 有機農業農家
- スーパーマーケット
- 環境保全活動組織
  など

※実施場所・研修先は予定

例えば こんな１週間

食料環境経済学科 時間割例

（2015年度）

1年生〈前期〉

	月	火	水	木	金
1限目 9:00~10:30		情報基礎（一）		ミクロ経済学（一）	
2限目 10:40~12:10	食料環境経済学演習（一）ゼミ		英語（三）	生物学	
3限目 13:00~14:30	環境経済史	スポーツ・レクリエーション（一）	フレッシュマンセミナー	グローバル経済論	英語（一）
4限目 14:40~16:10			経営学入門		研究室活動
5限目 16:20~17:50					

必修　選択必修

3年生〈前期〉

	月	火	水	木	金
1限目 9:00~10:30					
2限目 10:40~12:10		英会話（一）	社会調査	地域計画論	農業経営学
3限目 13:00~14:30		計量経済学	フィールドスタディー	国際農業経済論	
4限目 14:40~16:10	食品産業論	食料環境経済学演習（五）ゼミ			特別演習（三）研究室活動
5限目 16:20~17:50					

必修

※2015年度の実際の学生の時間割をもとに、2016年度開始のカリキュラムを想定しました。

実学主義を実践する食料環境経済学科 **独自プロジェクト**

山村再生プロジェクト

耕作放棄地と伝統文化の再生を通した
学生による過疎地活性化プロジェクト。
長野県長和町を舞台に、学生、地域住民、行政による協働で、
地域再生・活性化を担う人材育成をめざします。

学生たちの具体的な活動

【農業体験】
- 遊休荒廃農地の活用
- 楮、エゴマ栽培
- キヌア等機能性作物栽培
- 米、大豆栽培

【環境保全体験】
- 植林、枝打ち
- 炭焼き

【販売体験】
- 地域特産物の販売支援
- ビジネス感覚の涵養
- マーケティング戦略

【企画立案】
- 自己実現教育
- 自己評価教育

【地域交流】
- 都市と農村の交流
- 地域再生ワークショップ

このような活動や体験を通し
学生たちがさまざまな能力を身に付け
「地域社会に貢献できる人材」に育つことが
このプロジェクトの目的です。

「山村再生プロジェクト」の成り立ち

平成20～22年度に文部科学省の教育GPに選定された「地域再生・活性化担い手育成教育プログラム」。平成23年度以降「山村再生プロジェクト」として、より充実した内容で展開しています。

学びをさらに深める

大学院

大学院で より高度な研究を志す

大学院

卒業後の進路は、就職だけではありません。さらに深く、高度な研究をめざし、大学院に進学する道もあります。食料環境経済学科の場合、大学院志望者の多くは農学研究科「農業経済学専攻」に進んでいます。

農業経済学専攻

高度な専門教育を通じて優れた研究者を育成

食料の生産･流通･消費について、応用経済学の視点をもとに総合的に分析。また、環境問題や農業が持つ環境保全機能について、経済面や国際的視点からの学際的な研究も進めています。個別指導を中心に、情報処理、企画立案、実態調査の能力を養うなど、高度な専門教育を通じて、優れた教育者、研究者の育成をめざしています。

研究分野
- 農業経済学分野
- 農政学分野
- 食料経済学分野

課程
- 博士前期課程
- 博士後期課程

段階的に専門的な能力を高めていきます

博士後期課程（博士･標準修業年限3年）

研究者として自立した研究活動を行います。同時に、高度で専門的な業務に必要な研究能力や豊かな学識を養います。

博士前期課程（修士･標準修業年限2年）

広い視野から学識を高め、専攻分野における研究能力を伸ばすとともに、専門性を要する職業に必要な能力を養います。

食料環境経済学科（学士･修業年限4年）

食料･環境経済に関する学問的基礎を築きます。研究室や農経会を通し、大学院の院生と連携した活動も実施しています。

活躍する卒業生

卒業生の声

社会に貢献する仕事をしていきたい。

齊木　亮一郎

平成28年3月卒【農業経済研究室】
㈱ヤマタネ勤務

●学生時代印象に残ったこと　印象に残っているのは、2年次のフィールド研修と、研究室活動です。フィールド研修では、実際の生産現場での作業を経験しました。研究室活動では、学生が課題の設定から論文作成を行います。私はその中で、論文作成スキルだけでなく、仲間とひとつのものを作り上げていく貴重な体験をすることができました。

●将来の目標など　実際に社会に貢献する仕事をしていくことが目標です。そのために、まず「現場」を大切にしていきたいと考えています。さらに、自分自身が向上していくために、さまざまな分野に興味を持ち、常に考えて生活していきたいと思います。

●受験生へのメッセージ　この学科では、食、農、環境などについて、さまざまな勉強を行えるだけでなく、さまざまな課外活動にも参加できます。趣味も勉強も、自由に自分で決めることが大学生の醍醐味だと思うので、ぜひ、それを楽しんでください。

刺激にあふれた大学時代。

川崎　友希

平成27年3月卒【フードビジネス研究室】
加藤産業㈱勤務

●学生時代印象に残ったこと　私は1年の春から研究室に所属し、研究スキルを身に着けていきました。3年の時にはアイスクリーム製造企業の企業戦略についてグループ研究をし、班長として取り組みました。何度も壁に直面しながらも、他の班長たちと朝まで議論を交わしたりしながら乗り越えました。学会誌に論文が掲載された時は、大きな充実感と達成感を得ることができました。

●将来の目標など　自分の担当した仕事で人を笑顔にすることが私の目標です。食は生活に欠かせないものだからこそ、食を通じてたくさんの人を毎日笑顔にできたらいいなと考えています。そのために、さまざまなことに興味を持って、行動していこうと思います。

●受験生へのメッセージ　さまざまな個性を持った先生、学生ばかりの学科なので、毎日刺激を受けることができます。綱引きなど、楽しいイベントも数多く、勉強好き、運動好きな人はもちろん、それ以外の人でも充実した大学生活を過ごせると思います。

広がる！ 未来の可能性

就職

社会から寄せられる熱い期待と学科一丸体制の支援対策

就職支援対策

きめ細やかな指導で満足度の高い就職を実現! 学科独自の就職支援対策を早期から実施しています。食料環境経済学科ならではの就職動向に対応しており、毎年、満足度の高い就職実績につながっています。

就職活動体験記

食料環境経済学科卒業生たちの就職活動をまとめた体験記を発刊しています。就職情報の収集方法、求人や就職試験、面接の実態など、先輩たちの実体験が詳しくつづられています。食料環境経済学科ならではの就職動向、就職活動の特徴・ポイントなども理解でき、自分たちの就職活動に大きく役立てることができます。

1年生対象の職能支援講座

入学直後から就職支援対策に取り組むことが特徴です。そのひとつが、1年次のフレッシュマンセミナーで実施する職能支援講座。特に、就職試験に欠かせない時事問題の基礎知識を養うことに力を入れています。また、将来の就職に向けて、進路に関する意識づけ、動機づけも行っていきます。

3年生対象の実践的プログラム

就職活動のスタートに先駆け、より実践的な内容のプログラムを学科独自に実施しています。全学の就職講座の開始に先立った7月のガイダンスでは、就職活動体験記の配付と説明、学科就職講座の予告、就職活動への意識づけなどを行います。同時に、志望する業界、支援対策に関する要望を調査し、以後の指導に役立てています。

〈学科就職講座〉

10月　時事問題演習、集団討論と時事問題の攻略

10月　就職情報の収集方法（各種サイトの活用等）

11月　実践・就職活動（4年生の体験報告と討議）

11月　学科独自の企業セミナーを開催

そのほか多彩な就職支援対策

- 「進路登録カード」の提出
- 全学「企業セミナー」参加企業の人事担当者と懇談・名刺交換（1月）
- 各種の就職情報・企業情報等の収集
- 求人情報の提示・連絡　ほか

資格取得の支援

各種の資格取得に必要な講義・講習・実習を用意しています。資格は、社会に実力を証明する武器であり、専門的な技能を生かして進路を広げることにもつながります。ここに挙げた資格以外にも、自主的に勉強して、販売士、情報処理関係の資格を取得する学生もいます。

〈取得できる資格〉

- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民・農業）
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 司書
- 学芸員